

連携先世界遺産: 真言宗御室派総本山 仁和寺

世界遺産・仁和寺で学ぶ文化財の保存と観光などへの活用

(本科目が取り組んだ課題・改善事項等の概要を下記に記載してください)

所有文化財を積極的に活用しようと革新的な取り組みを行う仁和寺の手法を分析、若者視点で新たな文化財の活用法や京都観光の今後を提案する。

■受講生

井上 美玖(京都光華女子大学・キャリア形成学部・2年生)、大川 稜太(京都産業大学・経済学部・3年生)、大塚 悠夏(京都光華女子大学・健康科学部・2年生)、岡田 美有(京都光華女子大学・健康科学部・1年生)、北嶋 高典(龍谷大学・経済学部・3年生)、北本 桃子(同志社大学・文学部・3年生)、久保 琴美(京都光華女子大学・キャリア形成学部・4年生)、定元 桃花(京都光華女子大学短期大学部・ライフデザイン学科・2年生)、澤井 まどか(京都光華女子大学・健康科学部・2年生)、白井 千聖(京都光華女子大学・健康科学部・2年生)、杉浦 ひかり(京都光華女子大学・健康科学部・2年生)、杉森 明日香(京都光華女子大学・キャリア形成学部・2年生)、曾根 唯央里(京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生)、東田 英里華(京都光華女子大学・キャリア形成学部・4年生)、永井 千尋(京都光華女子大学・キャリア形成学部・4年生)、西澤 彩華(京都光華女子大学短期大学部・ライフデザイン学科・2年生)、平田 美緒(京都光華女子大学・キャリア形成学部・2年生)、藤井 涼香(京都光華女子大学・キャリア形成学部・2年生)、松本 あみ(京都光華女子大学短期大学部・ライフデザイン学科・2年生)、光本 菜由(京都光華女子大学・キャリア形成学部・4年生)、宮本 幸奈(京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生)、森内 彩音(京都光華女子大学・キャリア形成学部・2年生)、安原 佑莉菜(京都光華女子大学・キャリア形成学部・1年生)

■担当教員

佐滝剛弘(京都光華女子大学・キャリア形成学部・客員教授)

久世奈欧(京都光華女子大学短期大学部・ライフデザイン学科・講師)

活動目的・概要

これまで文化財はできるだけ手をつけずありのまま保存することが望ましいとされてきましたが、近年これを有用な観光資源と位置づけ、所有する寺社や周辺地域を活性化する重要な役割を期待されるようになりました。世界遺産・仁和寺でも、境内の建造物を宿泊施設として活用したり、非公開の文化財を、ヴァーチャル・リアリティの映像で視聴できるようにするなど、これまでにない新たな活用法を模索しており、その手法が注目を集めています。京都の中でも革新的な仁和寺の取り組みについて、寺院側の説明を受けながら、実際にその現場を視察、その後、グループワークで、学生の視点から、文化財の斬新な活用法をはじめ、観光における周辺地域との連携やアフターコロナの観光のあり方などを議論、グループごとに発表を行った。



◆主な活動

2020.4.30 ガイダンス(書面送付)

2020.5.20~31 Zoomによる顔合わせ・自己紹介

2020.6.1~30 世界遺産講義動画配信・各自視聴

2020.7.1~31 京都の観光についての課題実施・提出

2020.9.5 世界遺産の概要と京都の世界遺産講義(対面)

2020.9.5 文化財の概要と活用講義(対面)

2020.9.11 仁和寺の概要と御殿見学(仁和寺境内)

2020.9.12 仁和寺の観光戦略説明と寺内建造物、文化財視察(仁和寺境内)

2020.9.13 見学をもとにグループワーク

2020.11.14 グループワークの中間発表

2020.11.14 仁和寺で観音堂VR・ライトアップ見学

2020.12.12 グループワーク最終発表

2020.12.13 全体報告会で成果発表、最終課題実施

活動の成果

仁和寺の魅力の再発見と若い世代への訴求の提案

仁和寺は、皇室との深いつながり、金堂や五重塔をはじめとする国宝・重要文化財の建造物、空海が唐から持ち帰った「三十帖冊子」をはじめとする貴重な典籍など、名刹が多い京都の中でも第一級の寺院ですが、境内の「御室桜」で関西一円には知られているものの、全国的にはその魅力が伝わっていません。そこで、大学生のフレッシュな目で、どうしたら仁和寺の魅力を広く発信できるのか、現地での講義・見学のあと、グループで議論しました。

以下は、出された提案です。

- ▼ロケ地のアピール
- ▼「御室ムスメ」のマルチ展開
- ▼嵐電とのタイアップ



ポストコロナの京都観光を考える

京都は今年新型コロナウイルスの感染拡大の直撃を受け、インバウンドは消滅、一時は多くの寺院も参拝を停止せざるをえませんでした。仁和寺も参拝者は激減、寺院の運営や文化財の維持や保全に支障をきたしました。一方で、秋の紅葉シーズンには、Go Toトラベルキャンペーンの利用もあって、日本人だけで例年と変わらない混雑が生じたところもありました。こうした事態を経験した京都のポストコロナの観光は、今後どうあるべきでしょうか？ 3密を避ける観光は可能でしょうか？

こうした課題についてグループで話し合いました。

以下は、出された提案です。

- ▼ゆっくり観光できるスポットを特集するガイドブックの作成
- ▼人気観光地の完全予約制
- ▼非公開の場所をオンラインやVRで紹介



活動を振り返って

▼この授業には、学外で活動できること、所属学部以外の学生と一緒に学べること、世界遺産の専門家の授業を聴けることなどを期待して予想以上に多くの学生が集まりました。コロナ禍のさなか、各大学ではほとんどの授業がオンラインとなる中で、対面でフィールドワークやグループワークが思う存分できて、奇跡のような授業だったと参加者一同は受け止めています。

▼中でも、仁和寺という著名な観光寺院を内側から知るといふ経験はとても貴重で、美しいライトアップや普段非公開の建物の内部を寺僧の解説付きで見られ、その体験を学生間で共有できたことは、京都の大学に通っていなければできなかった体験だとの感想を持っています。

▼授業が短期集中ではなく、半年間にわたってとびとびに行われたことで、ペースが持続せず、中断しては忘れたところに思い出すというようなスケジュールになってしまったため、集中力を途切れさせないように維持するのが苦労した点です。

▼寺院の経営を、地域の人々や交通機関などと組み合わせて考えるというトレーニングは、これまでに経験のないものでした。また、自分たちがいかに京都のことを知らないかということも突き付けられました。今後、仁和寺以外の寺院や観光地についても興味を持ち続けたいと感じている学生が多くなっています。



VRを楽しむ学生たち



グループで発表する学生たち

担当教員からのコメント

佐滝 剛弘

本学と仁和寺様との共同の「世界遺産PBL科目」には、本学の中でも3つの異なった学部から1～4年生までが幅広く参加、加えて本学以外に3大学の学生が受講を希望し、23人というこの科目にしては大所帯の構成となった。当初は緊急事態宣言が出されていたこともあり、7月まではZoomによるオンライン授業、課題提出、全体授業で配布された動画の配信などで凌いだのち、9月からは仁和寺の境内で、対面の形で、寺院側からの講義や解説、通常非公開部分も含む寺内隅々の見学、グループワークなどをを行った。学生たちは普段の授業とはメンバーも教員も学習環境も異なることから、ほどよい緊張感と高揚感を感じながらの授業となったようだ。履修生のほとんどが一般の授業がオンラインとなっていることもあってか、対面で、しかも京都でも指折りの歴史を持つ世界遺産の寺院で授業を受けられたことや、PBL型の主体的な授業のあり方を、きわめて好意的に受け止めてくれていた。コロナ禍の中でも、充実した授業が展開できたと総括している。



活動資料

